

三笠ニュース

発行所
 東京都千代田区築業町1-4-3
 三笠産業株式会社
 電話 東京(292)1411 大代表
 テレックス 222~4607
 郵便番号 101
 P R 旬報 年4回発行

創刊二十周年を迎えた 三笠ニュース



三笠産業株式会社
 取締役社長
 京谷達也

十年一昔と申しますが、今回「三笠ニュース」創刊二十周年を迎えることになりました。お蔭を持ちましてどうやらこまめに「三笠」の基礎を築き上げてきたことが、皆様のご支援の賜物と感謝いたしております。

本社ビル落成時の創刊号から、京谷会長は「三笠ニュース」の編集長として自ら筆を執り、原稿の催促から割付に至るまで、総てに亘り指揮されて、P R 紙としてまた社内報としての面をも取入れたユニークな「三笠ニュース」の基礎を築き上げてきた。今回に至るまでその編集方針は脈々と受け継がれ、新製品の速報、営業活動の状況、代理店の皆様の模様、或いは技術情報等がその時々紙面を飾り、皆様の御手許に新鮮な情報をお届けし続けてまいりました。ふり返って見ますと、走馬灯のようにいろいろな事が頭に浮かび、なかには昨日のこのように鮮やかな思い出もあり、古い「三笠ニュース」の紙面をながめてみると懐かしい記憶が甦つてまいります。なかでも昭和三十九年十月八日の第七号に「日本最初のアメリカ向技術輸出成る」の見出しで大きく扱われていた「三笠」が、いま思えばその後の弊社の業務拡大の原動力ともなった海外との本格的な交流の第一歩だったのです。



ある時は箱根、熱海また京都、奈良と場所を変えて毎年開催される東部ならびに西部の代理店会、時によっては東西合同で一層の盛り上がりを見せたものでした。東京で行われたときは大相撲の夏場所を見に蔵前の国技館まで貸切りバスで出かけたこと、また京都で会場となった京大和では、玄関を入ったところでいきなり全員が浴衣に着替えさせられて面喰ったことなども思い出されます。この代理店会にお集り頂く皆様も年を経る毎に多くの方がお見えになるようになって、そこにも時代と共に伸びて行く姿を見ることが出来ます。

代理店会は建設機械展示会の一環として行われ、この見学会と共に、新製品の発表がプロダラムにも盛り込まれ、技術の担当者も実演、説明にと活躍の場となりました。

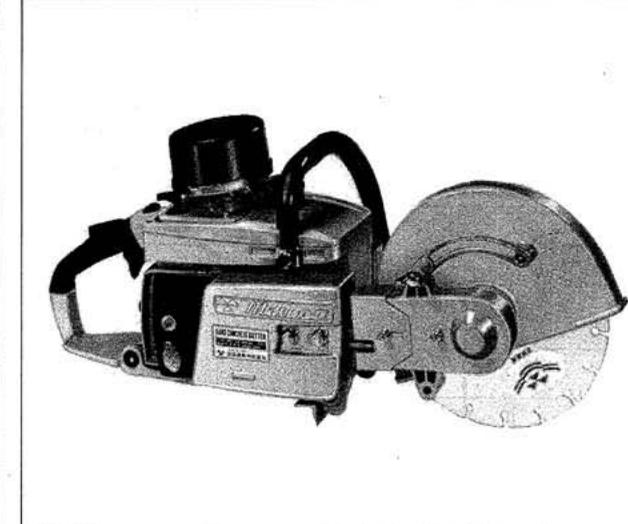
展示会は国内ばかりでなく、海外にも出品する時代となり、北京と上海で行われた日本工業展覧会に出展し、このときは北京一月八日発行の第十二号には「中国見たま」という紀行文を載せましたが遂に未完のままに終わってしまったのは心残りでした。今は海外営業部として人も充実していますが、その頃は三笠も輸出業務の黎明期で、アメリカ、中国、東南アジアからオーストラリアと海外出張も多く、その度に原稿を書かされたものです。締切りが迫り、一生懸命に筆を走らせ、我ながら良くできたかと思っている文章をズバリとばかりにカットされ、ガッカリしたものですが、刷りがあがってきた紙面を眺むと、スツキリとした文の流れにまともな印象が戻ってきたと思えます。

「三笠ニュース」の創刊が昭和三十八年四月八日ですが、この時に現在の本社ビルの落成式をいたしました。この日は春雨に濡れて花輪が並んでいたのが印象に残っています。

この本社ビルも昨年は内外装ともに大改修を施しました。創刊十周年の行事を行なったのが昭和四十八年四月、その後、創立四十周年を記念して埼玉県白岡町に技術研究所を建て、次いで二年後の昭和五十四年に仙台出張所の新築、更にこの翌年には館林工場の増築とたて続けに工事が行われました。

時代も高度成長から低成長へと伸びが鈍り、安定成長への道を辿ってまいりました。不況のかけりが続く、厳しさが増す昨今ではありますが、技術力の強化、生産力の拡充を計り、これを基軸として営業成績の一層の向上を策したわけでありませぬ。

パワーアップして新登場 MHC-10型 ハンド カッター



昨年六月からは営業の組織を改めて、国内と国外の二つの営業部を設け、これらの活動をサポートする営業本部を置き、このなかには技術サービスの部門がありまして、国内、海外へのサービスマンの派遣等をはじめ、積極的に販売支援を行う体制を固めました。具体的な成果の表われるのはこれからでしょうが、即効的な効果を狙ったものではありませぬので、未ながご利用頂けたらと考えております。さて、「三笠ニュース」も創刊二十周年を迎えたこの第八十一号より、紙面の組み直しをしまして、活字を大きくし、行間を広げ写真やイラストを多くする等、より読み易く、皆様に親しんで頂くよう努力を重ねてまいります。

皆様の励ましの声があつてこそ、「三笠ニュース」も今日まで歩んで来ることができたものと思えます。今後も更に三十年、四十年と引き続き発行を続けて行くには、皆様に愛され、そして活用して頂く「三笠ニュース」でなくてはならないと思えます。なにもふんにも素人の編集すること故、誤りや読みづらさところもお目にたまることと存じます。何卒ご叱正賜らんことをお願い申し上げます。創刊二十周年のお礼の言葉に代えてさせて頂きます。

ダイヤモンドブレードを取付けて、手軽に持つて軽快にコンクリートを切断する、ハンドカッターがフルモデルチェンジしました。空冷2サイクルエンジンの排気容積を50.2ccに広げ、従来のMHC-8A型に比べ13.2ccも大きくなり、最大出力は7500回転で3PSを発生します。

従来は1.9PS(8000回転)だったのが、排気容積は35%増加したので、対し出力は58%と大幅に上昇を示しています。

MHC-10型が従来のものと異なる最も大きなところは、10インチのブレードが取付けられるようになったことです。

MHC-8A型に至るまで使用されていたダイヤモンドブレードは、注水して使うウェットタイプのものでしたが、今回はこれがドライタイプのものに変更されました。注水しなくてもコンクリートの切断ができるハンドカッターです。

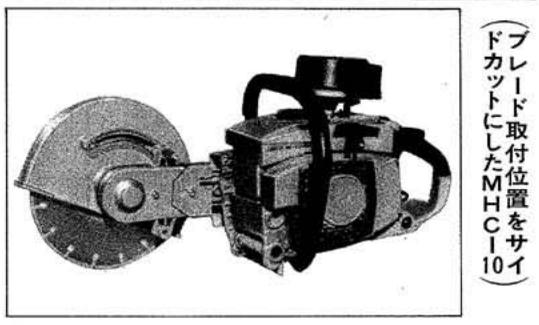
ダイヤモンドブレードに代って、レジンノイドブレードを取付けられるには、鋳鉄管や鉄筋、鉄板等の切断に使うことができるのはMHC-8A型と全く同じです。

切断作業の際に作業条件に応じてブレードの取付位置をセンターとサイドの二通りに変えることができるのもMHC-10型の特長の一つです。従来はセンターカットだけだったのが、構造物の際ぎりぎりのところで切断するような場合に

は、組付をかねてサイドカットとして使うことができるのです。MHC-10型のエンジン部分はシリントプロックはアルミダイキャストに内面は硬質クロムメッキが施され、その他の各部はマグネシウムダイキャストで作られ軽量化が計られています。そのため性能が大きく向上したにも拘らず、重量は9kgに抑えられ、MHC-8A型より僅か1kg増にとどめることができました。点火方式はトランジスタ電子式、気化器はウォルブロー社製のダイヤフラム式を使っています。エンジン部分とハンドルは防振ゴムを介して取付けられ、フルフローティング構造を採用、振動が手許に伝わるのを防いでいます。MHC-10型カッターは4月より発表の予定です。

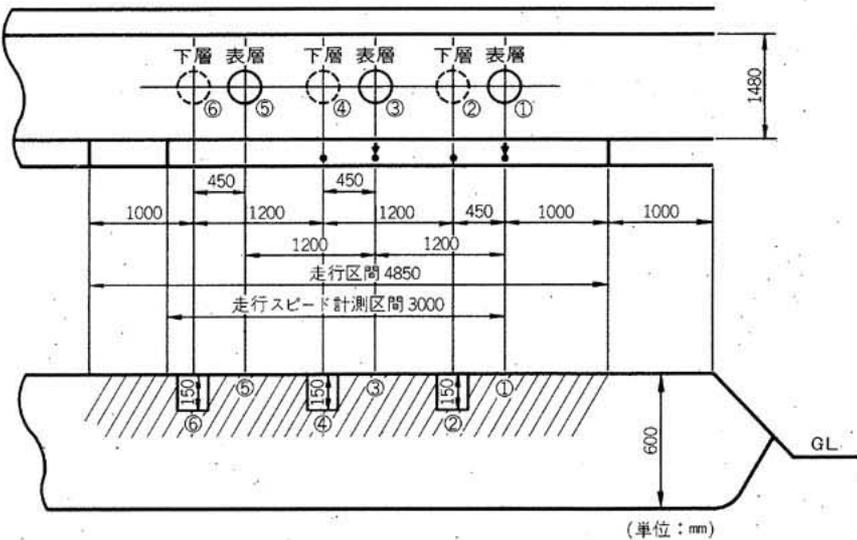
仕様
 型式 MHC-10
 254°(10")
 乾式ダイヤモンドブレード
 レジンノイドブレード
 最大切断深さ 86%
 プレート幅 227°(7/8")
 長さ 680mm
 重量 9kg
 使用エンジン タスECS-505
 空冷2サイクル
 最大出力3PS/7,500r.p.m
 リコイルスターター付

昭和五十八年度
 建設機械展示会の開催
 主催 日本建設機械化協会
 四月十四日(木) 四月十八日(月)
 札幌市豊平区月寒東三条十二丁目
 北海道立産業共進会場
 三笠製品を展示実演致します。



(ブレード取付位置をサイドカットにしたMHC-10)

■ 走行距離、走行速度測定距離、表層 I 計測点、下層 (15cm) I 値計測点は下図の通り。



バイブコンコンパクターとランマアの締固め試験行わる いずれも遜色ない優れた性能

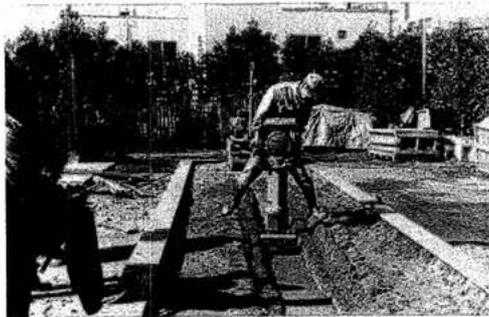
三笠のバイブコンコンパクターは、ランマアと同じ締固め能力があり、振動ローラーと同様にレバーの操作だけで、前進・後進が思いのまま。安定が良く、大変に使い易い締固め機械である。ひと口にランマアと同じ力があると言われていても、それは実際に作業している現場での話。本当にその通りなのだろうか。それを裏づける実験が三笠産業技術研究所で行われていた。実は、これらのデータは既に一部で確認されていたことではあったが、今回の実験はそれをより詳細に比較して行われたのである。

ランマアとバイブコンコンパクターの締固め試験は、三月三日(木)から五日(土)の三日間に亘り、埼玉県白岡町の三笠産業技術研究所内の屋外試験場で実施した。試験機は MTR-80H・80G 型ランマア、MVC-240D・240G 型バイブコンコンパクター各一台、合計五台である。これらは MTR-300G 型を除き、生産ラインから無作為に抽出されたもので、この試験までの運転時間は出荷時に於ける調整運転が済んでいるだけの状態で、いわ

ゆるナラシ運転が終了したものの耐力を測定した。地耐力の測定には谷藤機械工業製 TS-196 衝撃式地耐力測定器を用いて I 値を計測し、これを K 値に換算した。測定個所は図に示す通り表



(MTR-80G 型ランマアの締固め試験)
層三ヶ所と、15cm 掘り下げた下層三ヶ所である。MTR-7 型振動ローラーを無振動、走行レバーは 1/2 の状態でコース上を二回走らせ、初期転圧をして平ら



十六回と締固め回数を変え、その都度掘り出し初期転圧を繰り返す。各機種の測定を行なった。P₄・P₈・P₁₂・P₁₆ は供試機の通過回数を表わす。この締固め走行時にエンジン回転数と振動数を電気式回転計と同調振動計を用いて計測した。



(15cm 掘り下げた下層の I 値の計測)

試験記録を読むとほとんどの供試機が締固め回数の増加に伴って、下層がよく締固められているのがわかる。この傾向は MTR-80G ランマアに於いて顕著にあらわれているが、これは MTR-80G のように跳びはねが大きいもので山砂のような比較的大きなものを締固めた場合、表面が荒れて、I 値を計測する時に荒れた面では低い値となり、表層より 15cm 下の方が I 値が高くなるという結果となった。表層測定の場合は表面を少し削り測定器を密着させた方がよいのはなかったかと反省している。ランマアとバイブコンコンパクターを比較すると MTR-80H

(表層の I 値を計測する)

測定機種: 型式 MTR-80H 機番: M1948
測定日: 58年3月3日(木) 天気: 晴 締固め回数: P₈

エンジン回転数 rpm	振動数 cpm
3,800	585

全平均	
I	K ₃₀
表層	11.24 7.67
下層	10.76 8.13

(MVC-240D 型のテスト) 表層はきれいに締められる



注1: K 値 (K Value) 支持力係数とも言う。K 値を出す為の試験方法を平板積荷試験と言う。通常「K 値」とのみ言わずに、通常「K₃₀」という表し方をする。K₃₀ の 30 とは平板積荷試験を行なった時の平板の直径を cm で言っているものである。

注2: グラフの K₃₀ の数値は締固め回数毎の各測定個所の平均値である。

と MVC-240D・240G では P₄ の締固めではバイブコンコンパクターがやや勝り、P₁₂ ではほとんど同じとなり、P₁₆ まで締固め回数が増えるとランマアが優位に立つ。MTR-80G と MVC-300G では P₈ の下層測定値を除いて、すべての数値に於いて MVC-300G 型バイブコンコンパクターの方がやや勝っているのが判る。全体を通して見ると、通常の使い方は強力な三笠バイブコンコンパクターとランマアは、互角の締固め性能を持っていると言えよう。

測定機種: 型式 MVC-300G 機番: 技研試作機
測定日: 58年3月5日(土) 天気: 晴 締固め回数: P₈

エンジン回転数 rpm	振動数 cpm
3,100	2,700

全平均	
I	K ₃₀
表層	10.32 8.64
下層	10.51 8.4

測定機種: 型式 MVC-240G 機番: N1045
測定日: 58年3月4日(金) 天気: 晴 締固め回数: P₈

エンジン回転数 rpm	振動数 cpm
3,400	3,900

全平均	
I	K ₃₀
表層	9.85 9.23
下層	10.85 8.03

測定機種: 型式 MVC-240D 機番: M1008
測定日: 58年3月4日(金) 天気: 晴 締固め回数: P₈

エンジン回転数 rpm	振動数 cpm
3,000	3,900

全平均	
I	K ₃₀
表層	10.41 8.57
下層	10.51 8.35

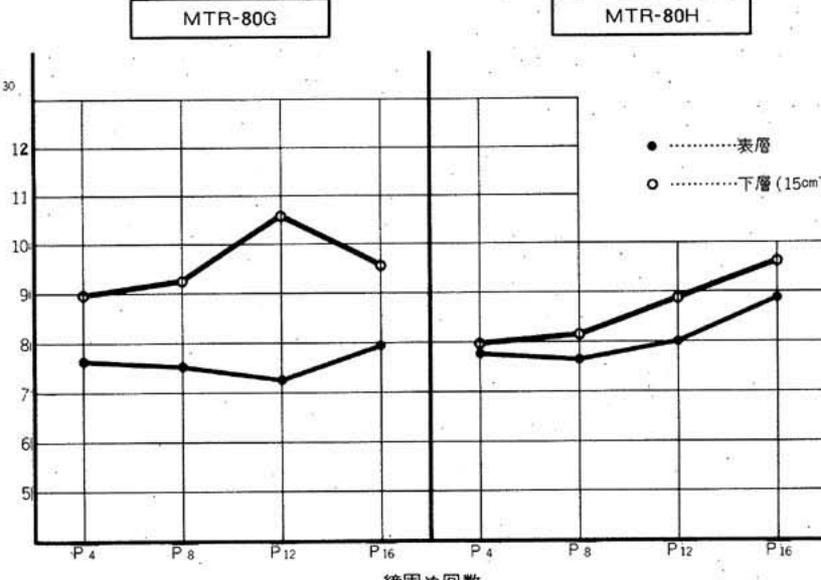
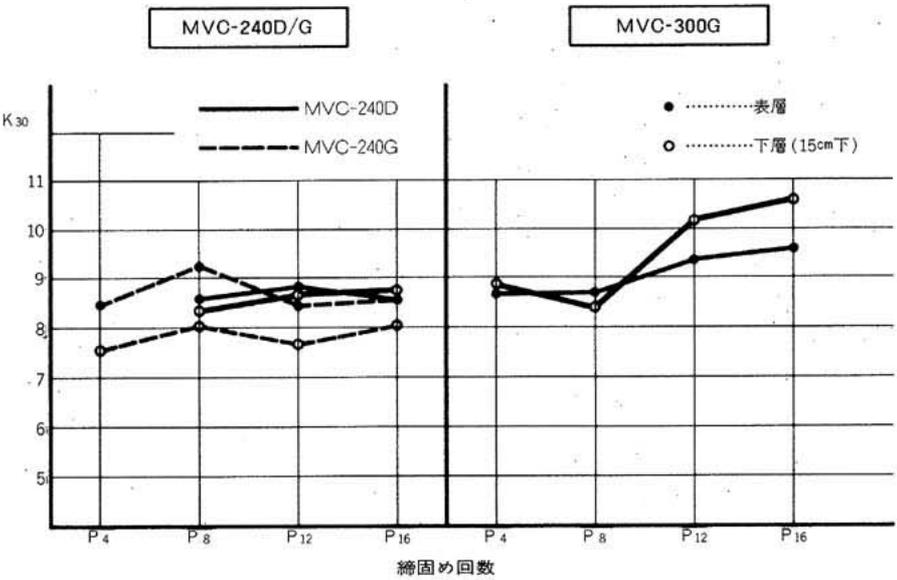
測定機種: 型式 MTR-80G 機番: M2552
測定日: 58年3月3日(木) 天気: 薄曇り 締固め回数: P₈

エンジン回転数 rpm	振動数 cpm
3,900	600

全平均	
I	K ₃₀
表層	11.55 7.55
下層	9.85 9.25



(MVC-300G 型、締固め性能は MTR-80G 型を凌ぐ)



三笠ニュース 創刊二十周年に寄せて

西部地区総発売元
三笠建設機械株式会社
代表取締役社長 小野芳廣



願わくば、新製品の発表の場でもあります本紙の情報が早く、製品の市販時期とのずれがあり、その指摘を受け、返答に困ることもあり、今後はタイミングよい発表を希望するものであります。

「二十年を振り返りて」
創刊以来二十年を数える三笠ニュースの刊行に、先ずは心からお祝いを申し上げますと同時に、兎角、この種の刊行物は、数年を経ずして廃刊されるものが多い中であって、この二十年間、おまじろ発行に努力されまして、関係各位には、改めて敬意を表するものであります。

拙文を寄稿するに当って、改めて創刊号より目を通します。その時代の背景と併せ、三笠製品の二十年の変遷が写し出されておられ、今昔の感一入です。

三笠ニュースも、最初は「三笠産業ニュース」と名付けられ、我々としては疎外感のようなものを持たざるを得なかったのですが、創刊十周年目より「三笠ニュース」と衣がえして、我々三笠建設機械にも従来以上に投稿の場を与えて頂き、西部地区の皆様の動向が全国にお伝え出来ることは嬉しいことであると思います。

三笠ニュースと云えば、私は三笠産業の輸出拡大と共に、外国最新情報もたらされ、一般紙にない身近なニュースとして親しんでおります。
又「技術教室」は、技術的な一般知識を養うに最適な記事であり、愛読しているもの一つであります。
年々紙面が充実し、お客様を訪問した折、本紙の記事が話題になることも時折あり、よく読んで頂いていることに我事のよりに嬉しくなることもあります。

時代は星霜を重ね安定成長の八十年代に入つて四年目、一段と厳しさが増えています。昨今ですが、今後共、皆様に喜んで頂ける新製品で本紙のトップを飾ることを期待し、二十一年目に大きくジャンプされることを祈念して、お祝いの寄稿といたします。

前笠友会長
桜電機株式会社
代表取締役 加藤 弘



二十周年記念御祝い申し上げます。その間の実績の偉大さはいかゞです。初期より見守って来られた人々は皆同様に実績の偉大さを実感して居られる事と思えます。三笠産業の業績が年々加重され今日に至りましたと同様に我々グループも前進はしても居る事は許されぬ年月と共に加齢しました。
思えば悲喜交々でありました。しかし御蔭様にも喜びは非常に多く、悲しみは余り大きく感じることとはほとんど無く、本当に幸せであったと思えます。
よって思い出さる事は、年々笠友会の総会に三笠産業の会長、社長、役員、部長を中心として我々グループが全員集合して毎年盛大化する業績を心ゆくまで味わい乍ら、西に東に加えて海外に足を伸ばして業績の好調を支えて喜びの満喫でした。

海外という言葉で思い出し、した。香港、バンコック、台湾等には特に思い出に残つて居ます。パンコックなどは会長を始め、我々も食物には大変に困りました。又、我々グループは皆揃って日本男子の面目を發揮し出かけたが、私は少々偏屈を脱しきれず皆さんの出かけるのを満たされぬ気分で見送りました。それに引換え台湾では素敵な美女にめぐり合った感激は今日も記憶に新たです。

二十年間は長くもあり、短くもありました。何れにしても良いメンバーにめぐまれ、すべての行事はそつなく非の打ち様もなく、誠に幸せに二十年を過ごしました。

語るにむずかしい二十年間。非に接する事が無過ぎました。社会は進歩に歩を進め、止まる処を知りません。我々グループも此れから迎える次の二十年に對して全員協力一致して過去と同様に業績を加重して行きたいと思ひます。

終りに一言。前進に次ぐ前進で段差が少なく、順調過ぎて余りにも無痛にて幸に浸り過ぎた感が致します。

笠友会長
田摩フレックス工業株式会社
取締役社長 田摩 秀治



「噴飯譚」
三笠ニュース発刊二十周年と聞いて今更の如く感慨に打たれる。すべからず他人事というものは去るものは日々疎しの例えの通りであつて、今ここに改めて振り返つてみると創刊以来毎回第一面と二面に新製品の写真入り説明と紹介記事、続いて新代理店の紹介写真と記事、順を追って社内行事の数々を面白可笑しく報じてある肩の凝らない読物である。
ここで題名の「噴飯譚」であるが、これは筆者の独りよがり

と取られる内容のものである。それは古を知つて現在を眺めるのからであり噴飯するものである。回顧録は概ね昭和三十年代から四十五年頃迄の間の出来事を筆者の記憶の中からの断片的に拾ひ上げた「噴飯シリアル」とでも名付けて漫画本でも観るような軽い気持ちで受止めて戴きたく望みます。

三笠社内行事の一つに野球大会なるものがあつて開設初期の頃は三笠本社、館林工場、春日部工場の三チームと協力工場の中央螺旋管、田摩フレックスの二チームを加えた謂わば身内同志の内輪トーナメント試合でまことに和氣霽々たるレジャーであつた。或る年の本社チームと館林チームの試合の一場面が出来事である。その時三笠ベース側の観戦兼応援席といつても田舎の草野球の事だ。繩一重の目前に三笠ベースがあつた。その傍らの席に京谷社長(現会長)と私が同席で見ていた。打者が右中間安打で二塁走者が猛烈にスパートして来て三笠ベースヘッドスライディング迄はよかつたが、此が目測を誤つてベース前で手が届かなくなつた。彼は腹這いのまま出来る限り腕を伸ばして手の指を大地に突き立てて形相物凄く引掻いたが所詮は徒勞に帰してアウトを宣せられて気の毒だったが、その時点に於ける選手のアウト精神が噴飯ものとするには申訳ない気がこみ上げて来る。

大体噴飯場面は酒宴の席に於ける座席の際に多く出会うと思はれる。何時の年か三笠株主總會懇親会の宴の時、現会長が隣室から現れた。我々は、宿の丹前を裏返しに着て(背面と腰に別柄の布地が縫い付けた物)腰の細紐にハタキを差し、長い座敷帯を逆さに立て持ち、更に頭上にはスリッパを裏返しして細紐で頸に結びつけたものだった。一座はドックと拍手の渦、サテ芸当は黒田節か槍さびでもと予期していられた。そこで皆が氣付き始めて手拍子よろしく「箱根の山は天下の嶮……」となつた次第、現会長が恐ろしく社長時代と右の光景を合せて想像してみ

て下さい。次に同じく宴席のこゝと、普段は館林市の名士、謹厳居士然として工場内では命令一下部下をキリキリ舞させる小林現専務館林工場長が、三味線小鼓の囃しに乗って舞台の左手からニコリ現れた。我々を眺めた。見れば、宿のゆかたを後ろ前に両手を通して腹部に座布団を四、五枚重ねたものを結いつけて腰帯を帯で縛り端をお尻に垂らして尻尾よろしく「ストコ上州館林文福茶釜に毛が生えた」と身振りおかしく踊るのである。次に常に宴席の人気者春日部市の名士いつも社内不在に拘らず製品納期優秀を期する不思議の存在、偉大なる指導者と云える現専務長谷川春日部工場長である。酔つぱらうと裸になつたがるのが此の人の癖の一つである。これがお腹一面に大きくへのへのへへののの線を画いて現れ頭からゆかたを被ぶつて腹を丸出し百面相を御披露する仕組である。この他では現専務吉田技研所長が舞台で芸者の横に「チョコナン」と正座してお得意の「やなぎの雨」を首を振りふり唄うのと、学生時代のヴォーカル部の名残りか、興に乗ると両手を一杯にひろげて「帰れソレントへ」を得意の原語でオペラ並みに唄うのは見事である。以上隠し芸と各々それぞれ御人の平常を想ひ合わせて下さる若し噴飯されれば筆者は満足です。

驚異的な御発展ぶりを、仔細に見せて頂いて参りました。一方私の方は十五・六年前に会社を失敗すると云う大失敗を演じました。それだけに「三笠ニュース」に関する事で忘れられないことがあります。
たしかホテル・オークラで、創立四十周年と云う様な記念パーティーがあつた時のことだと思ひます。京谷会長の御挨拶の中で、「三笠がここ迄来られたのは、必らずしも平坦な道を歩き続けて来たわけではなく、此のことは何回か社名を変更したことでも明らかである」と云う意味のことをお話しされたことがありました。このことは会社再建途上の私にとっては、非常に感銘深く、「三笠産業さんでも苦難の時代があつたのだ。俺もやらねば」と云う発奮の気持ちに駆られたものでした。
お蔭様で会社は、当初幾多の苦難を乗り越え、再建を全うすることが出来ましたが、之等のことと、昭和五十二年技術研究所落成式の際、協力会社として感謝状を頂戴した時の感激とは恐らく終生忘れることがないと思ひます。
ところで三笠産業さんの発展の過程で最も印象に残っているのは、何と云つてもランマーを始め、何と云つても、記念品を贈り賜り御礼申し上げました。振り返りますと初刊より現在に至るまで種々拙な事が有つた事と存じお詫び申し上げます。業務に精勤する所存で御座います。毎回三笠ニュースの発行に際し其の都度会長に於かれては非常にお元気で、精細と申しましようか心を込めてお書きになつた原稿を頂き、私共は一時も早く製版して初校をお出しする様努力致しました。先ず初校をお出ししますと会長は其の都度御自宅へ御持参になり校正されるから其処で渡すから、との御指示で第二校を翌日出す様に赤字を見ますと驚く様な「マツカッカ」で組替えしなげは到底二校三校を出す状態ではなく何回も深夜残業をして再校を提出する様な状態でした。然し今考へて見るとそれも嬉しい悲鳴であつたと申しても過言ではありませぬ。

「私一生の感激」
本年四月八日発行の貴社「三笠ニュース」第八十一号にて創刊二十周年記念をお迎えになりました。衷心よりお慶び申し上げます。又一〇周年記念に際しましては盛大なる祝賀会を開催して頂き其の上御丁寧な賞状、記念品を惠賜り御礼申し上げます。振り返りますと初刊より現在に至るまで種々拙な事が有つた事と存じお詫び申し上げます。業務に精勤する所存で御座います。毎回三笠ニュースの発行に際し其の都度会長に於かれては非常にお元気で、精細と申しましようか心を込めてお書きになつた原稿を頂き、私共は一時も早く製版して初校をお出しする様努力致しました。先ず初校をお出ししますと会長は其の都度御自宅へ御持参になり校正されるから其処で渡すから、との御指示で第二校を翌日出す様に赤字を見ますと驚く様な「マツカッカ」で組替えしなげは到底二校三校を出す状態ではなく何回も深夜残業をして再校を提出する様な状態でした。然し今考へて見るとそれも嬉しい悲鳴であつたと申しても過言ではありませぬ。

「雑感」
「三笠ニュース」発刊二十周年と云うことで、聊か驚いている次第です。尤も笠友会の発足は「三笠ニュース」より更に古く、今年が二十六周年ですから、私は三笠産業さんには二十六年以上上御厄介になつて居ることになります。此の間三笠産業さんの

折しもNHK大河ドラマ「徳川家康」では、信長が桶狭間に義元を急襲し、一擧に之を破ると云う破天荒の出来事が終つたところですが、「天の時」を掴むと云うのでしようが、何か相通

「わが青春の記録」
二十年をいま回顧して、思えば過ぎ去つた年月は、私にとつてまさに人生の真只中であり、家庭に於いても二人の子供の間長期でもあり、本当に一瞬の間であつた、と言ふのが実感である。

「三笠産業ニュース」創刊という事で前社長より台字のデザイン、続いて連載マンガの依頼を

其後御社の飛躍的發展により部数も増加し、又印刷技術の進歩と同時に作業も活版印刷よりオフセット印刷に移行し、組版も活字でなく写真植字を使用する事になりました。私は現在までの事を考察すると良くあれまで熱意を込めて会長御自身が陣頭指揮でおやりになつた事に存じ、私自身会社経営の上でも御手本にして居る次第です。現在では社長の御指示に従ひ、森総務部長が会長に代わつて編集に従事されて居ります。私、年四回のニュース発刊のたびに内校正をしており会社の御発展、業界の様子が目まぐるしく見られるが致しており、研究所の吉田専務他一同の方々には其の都度新製品の開発に大変な努力と存じ感謝しております。弊社も御社と御取引を頂き約二十数年になりましたがこれまで御援助御指導賜りました事を心から御礼申し上げます。

創刊二十周年記念に当たり、これから尚一層笠友会の一員として御期待に添う様努力する覚悟で御座居ります。

末筆で御座います。三笠産業株式会社の御繁栄を祈ると共に一層会長、社長ならびに社員の皆様様の御健康を共に祈り粗文で御座居りますが、三笠ニュース二十周年発刊記念を御慶び申し上げます。次第です。

イラストレーター 永井 郁

「三笠産業ニュース」創刊という事で前社長より台字のデザイン、続いて連載マンガの依頼を

「私一生の感激」
本年四月八日発行の貴社「三笠ニュース」第八十一号にて創刊二十周年記念をお迎えになりました。衷心よりお慶び申し上げます。又一〇周年記念に際しましては盛大なる祝賀会を開催して頂き其の上御丁寧な賞状、記念品を惠賜り御礼申し上げます。振り返りますと初刊より現在に至るまで種々拙な事が有つた事と存じお詫び申し上げます。業務に精勤する所存で御座います。毎回三笠ニュースの発行に際し其の都度会長に於かれては非常にお元気で、精細と申しましようか心を込めてお書きになつた原稿を頂き、私共は一時も早く製版して初校をお出しする様努力致しました。先ず初校をお出ししますと会長は其の都度御自宅へ御持参になり校正されるから其処で渡すから、との御指示で第二校を翌日出す様に赤字を見ますと驚く様な「マツカッカ」で組替えしなげは到底二校三校を出す状態ではなく何回も深夜残業をして再校を提出する様な状態でした。然し今考へて見るとそれも嬉しい悲鳴であつたと申しても過言ではありませぬ。

折しもNHK大河ドラマ「徳川家康」では、信長が桶狭間に義元を急襲し、一擧に之を破ると云う破天荒の出来事が終つたところですが、「天の時」を掴むと云うのでしようが、何か相通

「わが青春の記録」
二十年をいま回顧して、思えば過ぎ去つた年月は、私にとつてまさに人生の真只中であり、家庭に於いても二人の子供の間長期でもあり、本当に一瞬の間であつた、と言ふのが実感である。

「三笠産業ニュース」創刊という事で前社長より台字のデザイン、続いて連載マンガの依頼を

「わが青春の記録」
二十年をいま回顧して、思えば過ぎ去つた年月は、私にとつてまさに人生の真只中であり、家庭に於いても二人の子供の間長期でもあり、本当に一瞬の間であつた、と言ふのが実感である。

「三笠産業ニュース」創刊という事で前社長より台字のデザイン、続いて連載マンガの依頼を

「三笠産業ニュース」創刊という事で前社長より台字のデザイン、続いて連載マンガの依頼を

「三笠産業ニュース」創刊という事で前社長より台字のデザイン、続いて連載マンガの依頼を

「三笠産業ニュース」創刊という事で前社長より台字のデザイン、続いて連載マンガの依頼を

二十年の思い出

明日から三笠ニュースは、また三笠産業は新しい歴史に向って限りない前進を続けるだろう。事を期待し、祈ってやみません。



専務取締役
技術部長 吉田 謙 二

即座にアイデアがひらめく、なんていう事は全く稀で、何日も苦しむ場合の方が多く、遂に窮余の一策として現在の「忍法猿楽流」に変更してしまつたものである。

今当時のスクラップブックや、一昨年、一部を抜粋して決定版と銘打ってまとめた小冊子を聞いてみると、その時々の時の呻吟の跡も今は懐かしく思い出され、またそこはかとなく当時の世相も偲ばれ、すっかり成人してしまつた二人の子供達の幼い日々も回想されたりして……八十回、三二〇コマの中に層をなくして凝縮されているものこそ、今となつては二度と積み重ねられない私の貴重な青春の記録でもあるのである。

拙い作品ではあつたけれど、去る十周年の記念日に椿山荘で受けた晴れがましい表彰と、長い事貴重な紙面を提供して下さいました編集諸氏、さらにご愛読の皆様、登場人物一同になり変わり、ここに厚く御礼申し上げます。また私のペンに続くかぎり三十年、四十年と変わらぬご支援をお願い申し上げる次第です。

半世紀に及ぶ三笠産業の歴史の中で私が関つた三十余年、そして三笠ニューズだけで二十年、デザイナーとしての私の生涯を一〇〇%近く注ぎ込む事となつた三笠産業との出会いの日を、私は運命的な一日として今を振り返る中、あの銀座の裏の情景の中に回想するのである。

三笠ニューズ発刊二十周年の思い出と言いますと数々あるのですが、なかでも「新製品をトッ」の記事にしたいのだが」と編集長から頼まれ、完成一步手前なのでOKは出さしたくないのですが、結局はのせられてしまい、つらい思いをした事が度々御座居ました。ニューズにのつた以上、早出残業をして機械の耐久やら特許の出願とテンテコ舞でも新製品の発売にこぎつけた事も御座居ました。例えば電気直結型内部用コンクリートパイプモーターですが御存知のようにモーターと振動筒部分の間には作業者の手元に振動が伝わらないように防振ゴムが取り付けられています。このゴムを柔らかくすると振動を良く吸収してくれますが、非常に具合が良いのですが、一寸力をかけますと簡単に曲がつてしまい、内側の回転部と防振ゴムとが接触し、すぐにこわれてしまいますし又コジルことも全く出来ません。丈夫にしよと硬くすれば手元に振動が強く伝わり作業が出来ないという事で悩みに悩んで居りました。そこで解決出来ないで居りましたそんな時、研究所の片すみ誰か置いてあるのか、すりへつたラジアルタイヤがありスチールブレカ(ピアノ線)が表から見えるものがありました。普段なら防振ゴムで悩んでいた時ですか「これだ!これを使えばいいか!」早速切端をタイヤメカに

持ち込み相談したところ、「小さな円筒形防振ゴムの中へスチールブレカを入れるのは大変むずかしい」と言われた訳ですが無理に頼み込んで何とか試作付けたところ手元への振動は少なくなつた。曲げても丈夫で大喜びしたことが御座居ます。こうしてに合った訳ですが今振り返るとお陰で短期間に新製品を発表し、お客様からは「三笠のこのバイタリティーで次は何を発表してくれるのか」という期待と楽しみで三笠から離れられない」という少々気恥かしいお言葉を頂戴した事も御座居ました。又一面この苦労があつて一步も二歩も他に先んじて新製品を開発する事が出来、これも三笠ニューズのお陰だと大変嬉しく思つて居ります。技術を担当する者として今後はこの三笠ニューズに尻をたたかれないですむよう新しい機械を発表してゆきたいと思つて居ります。末永く御愛読をお願いすると同時に三笠製品の御愛顧を心からお願ひ申し上げます。

三笠ニューズ発刊二十周年を迎えるにあたり、これを記念して回顧版ともいふべきものを……との原稿依頼に今更乍ら過ぎたし方を顧り見て感慨無量のものに御座居ます。館林工場が市内より新設された工業団地に新築



(現在の館林工場全景)

の両側に雄狸と雌狸が鎮座して居りますが、当時、雄狸許りで雌狸の大きいものが無く、現在茂林寺境内で土産物店を経営している川島氏の御骨折で、数ヶ月後、前の方を木の葉で覆つた可愛い雌狸の奥入れを見て漸く格好がつかれた次第でした。国内の方々はもとより、アメリカ始め世界各国より多勢のお客様が御見えになりまして、お蔭様で大好評で御座居ます。童話で分福茶釜は皆様良く御承知で館林に有つたのですか? と、吃驚なさる方も多様です。分福茶釜の分福は、大勢の方に福を分ける」との意の由で、御来社のお客様も福を御持帰りの事と存じますが、お蔭様で私共もその余慶に浴させて頂いて居る様な次第で御座居ます。二十周年を迎え、私共は益々心を新たに努力を重ね皆様方の御信頼にお応え出来る優秀な機械製作に邁進致す決意で御座居ます。どうぞ今後共一層の御指導御支援の程心より御願ひ申し上げます。

移転し、新工場竣工式が行われましたのが昭和四十六年四月八日、早くも満十二年を迎える訳になります。四十四年十二月群馬銀行の応接室で、工業団地の話が出来まして早速現会長と実地検分、とんとん拍子に話が進み工業団地進出に踏切つた訳で当時誠に有難い、クリスマスプレゼント」と喜んで居ました。竣工式当日は多勢の代理店の方々や御取引先の方々に御来社頂き変らぬ御好意に心から感謝申し上げた次第で御座居ます。友人の飛行機野郎の異名をもつ大西君がセスナを飛ばし、花東投下で祝つてくれたり、富士重工さんがアドバルーンをあげて下さつたりで、華らしい門出に尚一層御期待に成るべくは……と重責をひしひしと感じた次第でした。お蔭様で其の後業績も順調に進展を見、四十九年新しく組立工場を増築、其の後五十五年新倉庫を増築と、目まぐるしく変遷を重ね今日を迎えました。お蔭様で、工場内も鋭意設備近代化に努力しました結果、一応皆様の御期待にお応えする事が出来る様になりました事を喜んで居ります。

工場事務所棟の二階に約六十六平方米の会議室が御座居ますが、多勢のお客様をお迎えするのにはあまり殺風景でも……と会長に計りました処、分福茶釜のコレクションでも……と期せずして私の考えと一致しました。既に御覧頂いた方々は御存知の事と思ひますが、飾戸棚

昭和三十八年、此の年は我が社にとって大変意義のある年で、三笠ニューズ創刊、之は本社が八重洲より神田の現在地に新築移転した事を記念し、現会長が自ら編集発刊されたという居ります。東京駅の八重洲口に程近い便利な場所にあったが余りにも狭い本社、それが金色に光る立派な新社屋、今は大色あせました。新しい机、什器備品、ヒカピカの殿堂。然かしそれ以上に私には価値があるのが、春日部工場の開設です。三十八年の年初から稼働しました。旧亀戸工場から責任者として春日部へ移り生産に従事した事です。三笠ニューズ創刊二十周年は私には格別な感があります。

お蔭様で二十年の歳月は、すっかり三笠春日部工場として春日部市に定着し、仕事もやりやすくなり、成果も揚げられる様になりました。自画自賛ですが三笠ニューズの創刊二十周年を心より祝うと共に過ぎた二昔を大切に、今後も良い製品が作れる様頑張り行き度いと決意を新たに居ります。



常務取締役
国内営業部長 戸 昭 次

「光陰矢の如し」の言葉そのまに、ついでこの間のように思える椿山荘での創刊十周年記念パーティー開催から早や十年、そしてここに二十周年を迎えて、あのとき、この時を思い起す時、歳月の流れの早さを改めて痛感しております。

目まぐるしく変わる世界情勢の中で、日本も高度成長時代から安定経済へと移行変わり、厳しいであろうとここの世界の不況は、やはり現実として厳しく受け止めねばならぬかと肝に命じて居ります。

新社屋落成と共に誕生したこの三笠産業ニューズも新製品の発表、全国各地で行なわれる展示会の報告、そして代理店各位の発展振りを報道しつつ二十年の歩みが続けてまいりました。創刊から各号に掲載されている新製品に於いても、時代の流れというものが決して無縁ではなかったと思うのです。

常に時代の要求に適應した製品を努力してまいりましたが、中でも七十年代の代表的製品、タンピングランナーも好評に次ぐ好評を博していまや二十年、又性能の改良を加えて整備性がよく、稼働率の高いプレートコンパクターと共に今もなおあらゆる分野で活躍しております。また八十年代に入ると共に、これは三笠ニューズ発刊と同時に

三笠産業の全社員が待望久しい三笠本社ビル新築落成とともに創刊された三笠ニューズも今年で満二十周年を迎え、その歳月の流れの早さに驚きと喜びを感じて居ります。この二十年の間、刊行し続けられたことも、全国のお取引先の皆様より寄せられたお仕事の話、地域の話と特性、数多くの記事が紙面を賑わし、盛り上げていただいたことに他ならず、紙上をおかりして心からお礼申し上げます。さて、この二十年間を思い起こせば私は、五十二年六月に経理部に配属替えになるまで、三笠に入社して以来営業畑一筋で来ただけに、やはり、営業時代の語りが多くなります。

とくに、建機メーカーでは勿論、一般産業機械メーカーでも実施したことのない、キャラバン活動を全国的規模で、三十二年春よりスタートしたことで、これは三笠ニューズ発刊と同時に



常務取締役
経理部長 星 野 精 士



(三笠ニューズと同年に生まれた春日部工場)

に修理保全を加えた巡回サービス活動に変わり、更に、新製品のPRを兼ねて、都市部を離れた部部を重点とした巡回サービスとなり、代理店の皆様のご協力により各地で開催し、協力は強力に通じ、対売上貢献度も高く、好評裡に終了したのであります。

私自身は、三笠代理店会を始めとし、三笠の主な記念行事の司会、進行係を担当することがありました。

ご存知のように、行事進行は定刻に始まり、所定の時間のなかで決められたいくつかの式次第を定め終らせることで、何度も経験してはいますが、毎度冷汗三斗の思いです。数え上げればきりがないことですが、なにしろ素人司会者ですから戸惑うこともしばしば、お忙し皆様にご招待しているわけで、定刻に到着されない方が居られても当然のことと承知して居りながらドギマギするばかりで、漸くお姿を拝見してはほっとする始末。

ご来賓のご挨拶にも、微に入り細に渡り心配りの感じられて、時間の掛られる方も居られれば、要領よくお話しをまとめて、短時間で終われる方と予測がつかず、時間の振り分けは難しい頭を悩ますことの一つでもありました。

他方、屋外で行なう地鎮祭の司会の際のこと。風吹けば、砂埃が舞い、目には入るが、頭髪は白髪が如くなり、テントは飛ばされるほど大変な有様。反面、雨が降れば足もと田圃どきの田圃と化して、自動車のタイヤはめり込むやら四苦八苦することばかり。とにかく、地鎮祭には「本日は晴天なり」を祈るのみでした。

永年のおつきあいで気心も知っていた方も多く、陰で助言をいただいたりして、少なくとも表面的には襤褸も出さないうえにとか済ませることができました。

いずれにしても甚だ自慢にならぬことばかりでした。

結びに、今後とも、二十年前を忘れずに皆様のお役に成るべく最大限の努力を怠らぬことを誓い、併せて、これからもどうかお叱言とご註文を三笠ニュースにお寄せ下さるとともに、ご愛読の程をお願い申し上げます。

取締役
経理部次長 川口 孝行



八重洲から今の社屋に移ると同時に発行された三笠ニュースも早や二十年の足跡を刻んできたのかと胸が熱くなってきました。創刊号から改めて眺めて見ますと其のまま会社の息吹が感ぜられ、変遷の激しい時代に止まることを知らず走って来たようすがうかがわれて感無量です。

即ち新製品の発表、改良に改良を加えて登場する各種パイプ、ター等、時代の要請を先取りして次々と紙面を飾って居ります。加えるに販売店各位様の隆昌ぶり、各営業所の活躍、年中行事の報告等々枚挙に暇がありません。

私は資材課に永い間席を置いて来た関係で各協力工場には一方ならないご支援を常々賜って居ります。笠友会の幹事として三笠ニュースには年一回総会報告を載せて頂いて居ります。

そこには箱根の湖のプラックバス釣や、バンコク・香港や台湾への海外旅行等、総会後の親睦風景が写真入りで掲載されて居ります。会長の元気な顔を中心に集う会員の皆様の顔々々、三笠の力強い体勢を見る事が出来ます。

又協力工場の皆様には三笠ニュースをご愛読頂いて製品の仕様、動向は勿論のこと販売店様のご要望に至るまで把握されておられたようです。お蔭様で我が資材の手当も円滑迅速に進められてきました。

分科された多くの人々に依って製品が需要家さんにおわたる現代では其の間を取つ幾つかの手段があります。三笠ニュースのようなPR紙もその一端を担うものと思われまふ。殊に激化する情報社会に於いて、我が社に於ける三笠ニュースは今日までよくその任を果して来たと思ふし、又今後は更にその責も重み

を加えて行くでしょう。今や日本経済も目覚ましいまでの発展を遂げた感があります。今後は各分野共安定成長を如何に成し遂げるかにかかって来て居ります。

三笠ニュースも二十周年を迎えて会社と共にこの時点を乗り越えて行くこととして居ります。三笠産業並に三笠ニュースの今後の発展を期して私共は益々社業に邁進致す所存です。

(元編集委員)
取締役
技術部次長 松下一男



今から二十年前の昭和三十八年四月八日、創立二十六周年の記念行事として本社新築落成を契機に三笠産業ニュースが発行されることになり、現京谷会長自ら編集委員長を兼務され、その指導のもと編集委員として参画し、読者の身になって編集する難しさを身をもって体験しました。発行の目的は、PR季報で三笠の新製品を紙上で発表すると同時に各ディーラー、ユーザーさん等の近況を広く読者に伝えることでした。

創刊号編集に当たっては三ヶ月位前から原稿、写真等の収集にかりかりと新機種開発が新聞の発行日に間に合ないと云った事など、今はなつかしく思い出されます。当時は寄稿が少なかつたので、六段組みで写真を大きくしてバランス良くレイアウトするのが易しいよう難しい仕事のひとつでした。

レイアウトの段になってからタイプ紙に写真の大きさを指定し残りは記事を増減を計る等の苦行を行っていました。朝川印刷さんでは、相当ご苦労されたことと思つて居ります。

初校になりましてゲラ刷が真赤になる程の修正、変更等々責了まで数回の校正を要しました。それでも発行回数が増えるに従い編集委員も馴れ、又社員を始

め、各関係者の方々よりの寄稿も多くなり、にわか紙上ににぎわいを見せはじめました。うれし悲鳴と同時に編集者の力量を問われるきびしい時期でもありました。

記事が豊富になったことを機に六段から一段組みとし、三笠ニュース専用の原稿用紙、レイアウト用紙を作り本格的な新聞へと移行するに至りました。

三笠産業ニュースの人気まんま、永井画伯の「ダンピング坊やとパイプじいさん」が「三笠丸忍法猿楽流」に化身したのも此の時でした。それに伴い編集校正が迅速化され、三笠ニュースも軌道に乗ったものと思つて居ります。

現在、編集委員を離れ十年近く一読者として興味深く愛読して居りますが機械製造メーカーとしてとかく硬い記事にのみならず、走りごちなど、意欲的にさまざまな新しいニュースソースが、さまざまな角度からの確に組み込まれ、読者にとって貴重な参考資料となつて居ると同時に楽しい新聞として広い読者層を確保しているのではないかと思います。

人間で云うならば二十才、成人式を迎えた大きな節目の三笠ニュースが今後益々ディーラーユーザーさんより親しまれる内容と一層生々な充実感を加えたものになることを心からお祈りして止みません。

皆様方にご援助を戴きつつ三笠ニュースも無事成人式(発行二十周年)を迎える事が出来ました。三笠の一員と致しまして心から厚くお礼申し上げます。

思えば昭和三十八年四月の創刊号が発刊されると同時に私も三笠での第一歩を踏み出し、爾来二十二年間、八十一号の現在に

十年程前の昭和四十八年頃
全国各地の展示会場でお馴染みだった三笠の小間



した振動筒のシリーズ化、はた又時代のニーズに即応したコンパクター、ゼネレーター品の揃え等、三笠技術陣の努力と全社の総力を結集しての改善の様子を刻々と即座に、ユーザー、ディーラーの皆様へ全国津々浦々迄お知らせ出来たのも「三笠ニュース」と云う情報伝達機関があつたればこそと、営業部に籍を置く一人として其の存在価値を再認識致しています。

今後益々其の内容を充実し広く多くの皆様に愛される旬報にすべく努力し読者の方々の御期待に添い度いと念願致しており、何卒皆様に於かれましては三笠ニュースの御提供を賜れば幸甚です。

どうか今後共一層の御指導御鞭撻の程御願ひ申し上げます。

三笠ニュースの二十年は、技術部に籍をおく者にとつては、そのまま商品開発の記録とその経過である。標準型パイプレータの様に今も尚、生産をつづけられるものもあるが、二十年の流れの中にはいろいろ、商品の消長があり、長寿を保っている機種もあれば生れてすぐに消えてしまった機種もある。一つの機種の中でもモデルが変りタイプが異なつて居る。ふりかえると商品の移り変わりが二十年の時間を圧縮して眺めることができて、そこに大きな教訓を示していることに気付く。

使用者に負担をかけるもの、使にくいもの、面倒な操作を強いもの、そして努力の割に働きのほつきりしないもの、これらの存在する機械は、それ自身存在し続けられない極めて当り前のことなのである。

技術は奇策を弄することではない。ある意味では極めて常識的なことの追求に他ならない。それが二十年の経過の流れの中で明瞭に感じられるのである。

さて次にこれからの三笠ニュースについてはどの様に考えたらよいか。

三笠ニュースはユーザー、ディーラーの方々三笠を結ぶための情報提供紙であるから、やはり主たる役目の一つは製品の紹介である。今後は形状、大きさ、重さなどの姿、形のお知らせだけでなく、その製品がどんな仕事を成し遂げられるか、どれだけの機能がどんな結果を出すか、と出来るのか、所謂コストパフォーマンスの説明やPRがより重要になるだろう。

例えば振動ローラであれば、機械の重さ、寸法、振動数だけではなく、これだけの土質で、まき厚がいくらで、これだけの時間内に如何程の締固度が得られるなど、ユーザーがこの機械を使おうと考へてくれたとき、どれだけの仕事ができるかを判断出来る材料を提供しなければいけないのである。

これからはますます機械の質を問われる時代である。三笠ニュースの紙面もそれに対応しなければならず、資料を提供する立場のものとして、製品を作るだけではなく、コストパフォーマンスの追求、ユーザー、ディーラーのより必要な技術情報を提供するための実験、研究をより充実させていく必要があると思ふ。技術的にも時間的にも困難な仕事である。しかしメーカーとして、これらの作業は製品を作る事と併せて重要な仕事であると、自省をこめて考へて居る。

海外営業部次長
高野 長四郎

早いもので「アツ」と云う間に、二十年の歳月が過ぎました。輸出を手掛けて間もない頃、突然ある大手商社から、我が社製品の輸入に興味あるバイヤーが来訪されるとの思いがけない知らせを受けたことがあります。

海外からの顧客の訪問を得られないかと、望んで居りましたが、小型建機輸出は商社さんからまだ敬遠されていたので、一時は諦めていた程でした。

と申しますのも、三十九年の東京オリンピックを境にして、国内の建設ブームが下火になる、これまで小型建機輸出は時期早尚といわれ、目を向けて頂けず、冷淡な扱いを受けていたことが嘘のように急変し、いままで重機主体に輸出して来た商社さんも、又新たに建機輸出を手掛けようとする商社さんも挙って海外の顧客を擁護しようとして動き始めた時期でした。

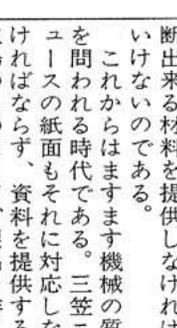
来日の日取も決まり、まだバイヤーの期待を持てるものでもありませんでしたので、来訪が実現するとは夢のようでもあり、本当に来日されるのだからかと、半信半疑でもありました。

来日の日取も決まり、その日が近づくにつれ、その国との習慣の違いもあり、どう対応したらよいか、どう接待したら本當に喜んで頂けるのか、初めての経験なので不安でした。

当日、ホテルまで迎えに行き、そのバイヤーに会いますと、非常に日本に興味を持って居ることが判り、商談後は日本式料亭に招待して喜んで貰えるものと決めました。

そのようにならなくて色々憂慮した挙句、日本料亭に招き日本流にもてなしてみようと、相手も興味あつたとは云え、初めて見る日本料理が美しくもりつけられて運ばれてくると、さすがに戸惑い、ぎこちない恰好で箸をつけて居ましたが、馴染の奇麗なところに囲んでもいい、盃を重ねるにつれ、雰囲気にも馴れて来たのでしよう。馴れぬアグラをかいたり、初めて箸の使い方を習ったりして、私達の日本流接待に感心している相手の姿を見るにつれ、自信のなかつた姿も忘れ、芸者連の踊りを見ながら互いに盃を交し、爆笑の渦まく歓談の中楽しい一夜を過ごすことが出来ました。

昨今は毎年多くの顧客を海外から迎えるようになり、我が社が当時から見ますと互いに理解が深まっており、思い出すにつれ今昔の感を新たにしています。



三笠ニュースの二十年は、技術部に籍をおく者にとつては、そのまま商品開発の記録とその経過である。標準型パイプレータの様に今も尚、生産をつづけられるものもあるが、二十年の流れの中にはいろいろ、商品の消長があり、長寿を保っている機種もあれば生れてすぐに消えてしまった機種もある。一つの機種の中でもモデルが変りタイプが異なつて居る。ふりかえると商品の移り変わりが二十年の時間を圧縮して眺めることができて、そこに大きな教訓を示していることに気付く。

使用者に負担をかけるもの、使にくいもの、面倒な操作を強いもの、そして努力の割に働きのほつきりしないもの、これらの存在する機械は、それ自身存在し続けられない極めて当り前のことなのである。

技術は奇策を弄することではない。ある意味では極めて常識的なことの追求に他ならない。それが二十年の経過の流れの中で明瞭に感じられるのである。



海外営業部次長 高野 長四郎

早いもので「アツ」と云う間に、二十年の歳月が過ぎました。輸出を手掛けて間もない頃、突然ある大手商社から、我が社製品の輸入に興味あるバイヤーが来訪されるとの思いがけない知らせを受けたことがあります。

海外からの顧客の訪問を得られないかと、望んで居りましたが、小型建機輸出は商社さんからまだ敬遠されていたので、一時は諦めていた程でした。

と申しますのも、三十九年の東京オリンピックを境にして、国内の建設ブームが下火になる、これまで小型建機輸出は時期早尚といわれ、目を向けて頂けず、冷淡な扱いを受けていたことが嘘のように急変し、いままで重機主体に輸出して来た商社さんも、又新たに建機輸出を手掛けようとする商社さんも挙って海外の顧客を擁護しようとして動き始めた時期でした。

来日の日取も決まり、まだバイヤーの期待を持てるものでもありませんでしたので、来訪が実現するとは夢のようでもあり、本当に来日されるのだからかと、半信半疑でもありました。

来日の日取も決まり、その日が近づくにつれ、その国との習慣の違いもあり、どう対応したらよいか、どう接待したら本當に喜んで頂けるのか、初めての経験なので不安でした。

当日、ホテルまで迎えに行き、そのバイヤーに会いますと、非常に日本に興味を持って居ることが判り、商談後は日本式料亭に招待して喜んで貰えるものと決めました。

そのようにならなくて色々憂慮した挙句、日本料亭に招き日本流にもてなしてみようと、相手も興味あつたとは云え、初めて見る日本料理が美しくもりつけられて運ばれてくると、さすがに戸惑い、ぎこちない恰好で箸をつけて居ましたが、馴染の奇麗なところに囲んでもいい、盃を重ねるにつれ、雰囲気にも馴れて来たのでしよう。馴れぬアグラをかいたり、初めて箸の使い方を習ったりして、私達の日本流接待に感心している相手の姿を見るにつれ、自信のなかつた姿も忘れ、芸者連の踊りを見ながら互いに盃を交し、爆笑の渦まく歓談の中楽しい一夜を過ごすことが出来ました。

昨今は毎年多くの顧客を海外から迎えるようになり、我が社が当時から見ますと互いに理解が深まっており、思い出すにつれ今昔の感を新たにしています。

第二十六回

笠友会開催

年一回の春の楽しい行事、笠友会の旅行の日がやって来まし...

冷たい雨の降りしきる三月十七日、三笠産業本社前を出発...

とところですが、菅野課長が「船頭小唄」を意外(失礼)な美...

約二時間小憩の後、愈々お待ち兼ね笠友会懇親会の幕が吉田...

昭和49年6月に技術から総務に転場が変りましたが、その前...

発行を自分が担当することになったなどは夢想だにできなかった...

は苦勞されていたようです。新製品は形になるやいなや、素...

事なども載りますので、なかには旅行や宴会などの記事も...

三葉利工具株

新社屋完成



川真田社長と新社屋



愛知県地区の我が社の有力代理店として三笠製品の販売に...

幅広い取扱商品と広汎に亘る販路を基に利器工器具、左官...

朝食後、再びバスの上の人となり帰途についたのですが、昨夜...

三笠ニュースも昭和三十八年四月八日に三笠産業ニュースと...

この神田猿樂町に引越して来てから丁度二十年に成りますが...

三笠さんは社歴も古いし、以前には自動車を作った事がある...

の出来映えは別として紙面全体に読者に訴えかける何か、全...



お陰様をもちまして三笠ニュースも早く、創刊二十周年を迎え...

三、四ページと申しますと、当社の社員が海外出張した時の...

文字を一字一字数えてようやく割付けしたものが、校正で戻...

の出来映えは別として紙面全体に読者に訴えかける何か、全...

編集後記

常務取締役総務部長 森 昭男



昭和49年6月に技術から総務に転場が変りましたが、その前...

発行を自分が担当することになったなどは夢想だにできなかった...

は苦勞されていたようです。新製品は形になるやいなや、素...

事なども載りますので、なかには旅行や宴会などの記事も...

総務部庶務課長 炭 善雄



三笠ニュースも昭和三十八年四月八日に三笠産業ニュースと...

この神田猿樂町に引越して来てから丁度二十年に成りますが...

三笠さんは社歴も古いし、以前には自動車を作った事がある...

の出来映えは別として紙面全体に読者に訴えかける何か、全...

総務部庶務課主任 原田博文



お陰様をもちまして三笠ニュースも早く、創刊二十周年を迎え...

三、四ページと申しますと、当社の社員が海外出張した時の...

文字を一字一字数えてようやく割付けしたものが、校正で戻...

の出来映えは別として紙面全体に読者に訴えかける何か、全...